属性を超えてつながることができる“公民館”の可能性
～誰一人取り残さない地域社会の実現を目指して～

NPO法人地域サポートわかさ　事務局長／那覇市若狭公民館　館長　宮城　潤

公民館の民営化を機に設立

那覇市若狭公民館の指定管理者を務めるNPO法人地域サポートわかさは、周辺の自治会役員をはじめとする地域住民、公民館利用者や民生委員、児童委員、学校関係者、近隣施設長などによるネットワーク組織です。那覇市が公民館の民営化を検討し始めた頃、その受け皿となることを視野に入れながら、2005年に設立、2007年にNPO法人として認証されました。2010年に公民館の一部業務を受託、2015年からは指定管理者を務めています。

地域概況と取り組みの留意点

若狭公民館のエリアは広域で、都市型の課題が顕著に表れた地域です。自治会加入率は12%台と低く、生活保護受給世帯やひとり親世帯も多いです。那覇市の外国人増加率は全国的に上位にありますが、その多くがこの地域で暮らしています。

公民館は地域の拠点となる社会教育施設として多様な住民のつながりをつくり、それを地域づくりへとつなげていく使命があります。地域にはさまざまな背景を持つ多様な人々が暮らしていますが、公民館に訪れるのはその中のごく一部の方々でしかありません。若狭公民館では、住民の多様な実情に向き合うためにも当事者団体をはじめ多くの専門家やNPOと協働して取り組むように留意しています。

多文化共生に取り組むきっかけ

2015年頃から留学生が急増したことに伴い、地域住民からは漠然とした不安の声やゴミ出しのマナー、深夜の騒音などの苦情も聞こえるようになりました。文化や慣習の違いから差別や排除が生まれないように顔の見える交流の場を持ちたいと考え、沖縄NGOセンターに相談したところ、那覇市に最も多いネパール人の当事者団体「沖縄ネパール友好協会（ONFA）」を紹介してもらい、以降協働してさまざまな事業を展開しています。

在住ネパール人との交流

ネパール人コミュニティとの交流事業で最も代表的なものは2018年に始めた「ネパール・ニューイヤーパーティー」です。ネパールで使われるビクラム暦のお正月は西暦の4月中旬にあたります（2023年4月14日がビクラム暦2080年1月1日）。留学生や地域住民からボランティアを募り、お正月を祝うイベントを共に企画、運営することを通じて顔の見える関係をつくっています。ネパールの概要を紹介するプレゼンや沖縄・ネパールそれぞれの民俗芸能の披露、民族衣装の着付け体験、ネパール料理販売、質問コーナーなどのプログラムは好評で、地域住民の理解促進と交流の機会になっています。

ネパール・ニューイヤーパーティーにて、ONFAメンバーおよび留学生と地域ボランティア

また、ONFAメンバーを講師にネパールの家庭料理を学ぶ講座や映像制作を通じて交流し理解を深めるワークショップ「ユーチュー部」を開催するなど事業は展開しており、若狭地域文化祭では、ネパールの民俗舞踊演舞やネパール料理の屋台出店が定着しています。

文化背景の異なる在留外国人と地域住民が交流しながら映像制作を学ぶ「ユーチュー部」の様子

「若狭地域文化祭」にて民俗舞踊を披露した留学生

コロナ禍での取り組み

新型コロナウイルス感染症は観光業や飲食業でアルバイトをしている留学生にも大きな影響を与えました。仕事がなくなり困窮状態に陥っている留学生を対象とした食糧支援（主催：ONFA）を実施した際には、臨時休館中の公民館を食糧集積および配布拠点として提供するなど後方支援に努めました。

また、県外では困窮した外国人が犯罪に加担する事例があるということを知り、ONFA とともに警察や行政関係課、社会福祉協議会などの関係機関との情報交換の場を設けたほか、県新型コロナウイルス感染症対策本部と ONFA をつなぎ、ネパール人コミュニティへの情報提供の促進に努めたり、観光危機管理に従事する人とともに外国人対象のオンラインコロナセミナーを開催したりしました。

これらの活動で連携協働した多文化共生に取り組む NPO や出身や属性の異なる外国人当事者から、生活課題や疑問、提案について意見交換する場が欲しいという声を受け、地域自治会長、社会福祉協議会、那覇市議会議員各常任委員長を交えて話し合うオンライントークイベント「グローバルパラソル市民会議」の開催に発展しました。

オンライントークイベント「グローバルパラソル市民会議」の様子。イベントの様子は YouTube にてライブ配信した

多文化カフェ・わかさ

これらの取り組みにより、海外出身の方にも少しずつ若狭公民館のことが認知されるようになりました。今では ONFA に限らずさまざまな当事者団体が施設を利用するようになっているほか、ロビーで日本語の勉強をしている外国人と小学生がおしゃべりをしている姿も見かけるようになりました。

外国人の夜の居場所事業「多文化カフェ・わかさ」

2023 年度に入って始めた「多文化カフェ・わかさ」という居場所事業では、沖縄に来て数か月というインド人エンジニアや日本に来たばかりで日常会話も難しい中国人親子、職場でパワハラに遭い体調不良で職を失ったスペイン人研究者、沖縄にもルーツがあるが居場所がみつからないアメリカ人、短期留学で日本語を学びに来たカナダ人など出身も属性も異なる多様な方が訪れるようになっています。その中で毎回のように参加している台湾出身の方は「若狭公民館の役に立ちたい！」と iPhone 用の「若狭公民館情報アプリ」を開発してくれるという嬉しいことも起こっています。

公民館は、専門性に特化した施設ではないので何をしているのか分かりづらいという面もありますが、身近にある施設として、年齢・性別・国籍・出身・思想・宗教・文化背景・収入・能力・職種・病気の有無・障害の有無など、あらゆる属性や社会的立場に関わらず、多様な人が集い、学びあえる場としての可能性があります。

その可能性を生かし、誰一人取り残さない地域社会の実現に向けて少しでも近づけるように今後も尽力していきたいと思っています。